

2021年6月16日

各 位

ケネディクス・オフィス投資法人  
ケネディクス不動産投資顧問株式会社

**第31期（2020年10月期）決算説明資料の一部訂正について**

第31期（2020年10月期）決算説明資料を別紙のとおり訂正しました。

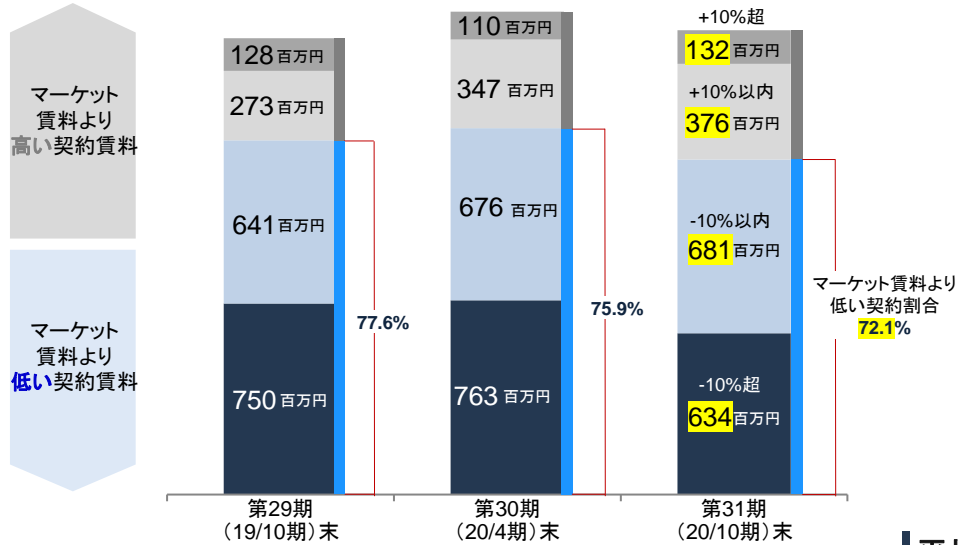
具体的な訂正箇所はイエローハイライトの部分となりますのでご参照ください。

以 上

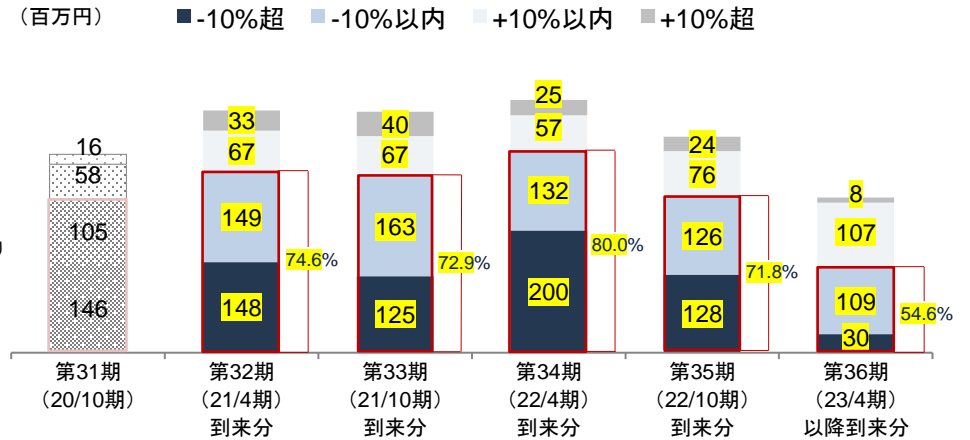
# 保有オフィスビルのレントギャップの状況

・テナント入替や賃料増額改定の実績積上げ等を背景にマーケット賃料を下回る契約賃料の割合は縮小

■ レントギャップの分布状況 (月額賃料ベース) (注1)



■ 賃料更新期別レントギャップ分布状況 (第31期 (20/10期) 末、月額賃料ベース) (注1) (注2)

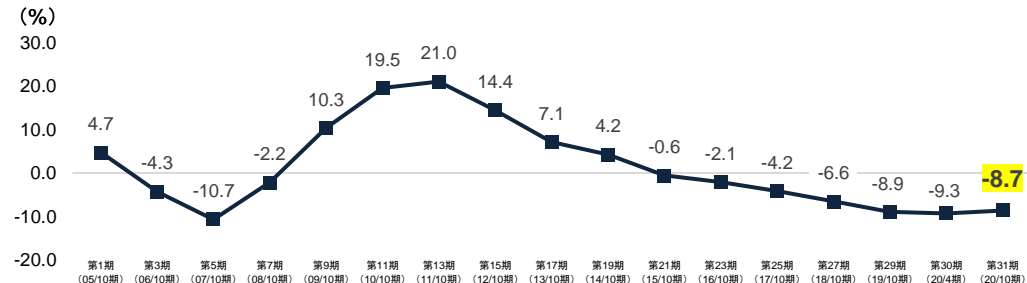


■ 保有物件におけるマーケット賃料動向

下表各項目、左から順に都心5区、東京経済圏(都心5区を除く)、地方経済圏の各物件数

	第29期 (19/10期)	第30期 (20/4期)	第31期 (20/10期)
上昇	43 / 21 / 15物件	25 / 9 / 1物件	- / - / -物件
横ばい	5 / 8 / 3物件	23 / 21 / 17物件	37 / 26 / 18物件
下落	- / - / -物件	- / - / -物件	10 / 4 / 1物件

■ 平均レントギャップの推移 (注3)



注1: CBREが各期末時点で査定した保有物件の新規成約見込賃料(基準階)をマーケット賃料とし、各期末時点におけるテナント契約賃料との乖離率をレントギャップとしています。

なお、乖離がない場合は「+10%以内」に含まれます。

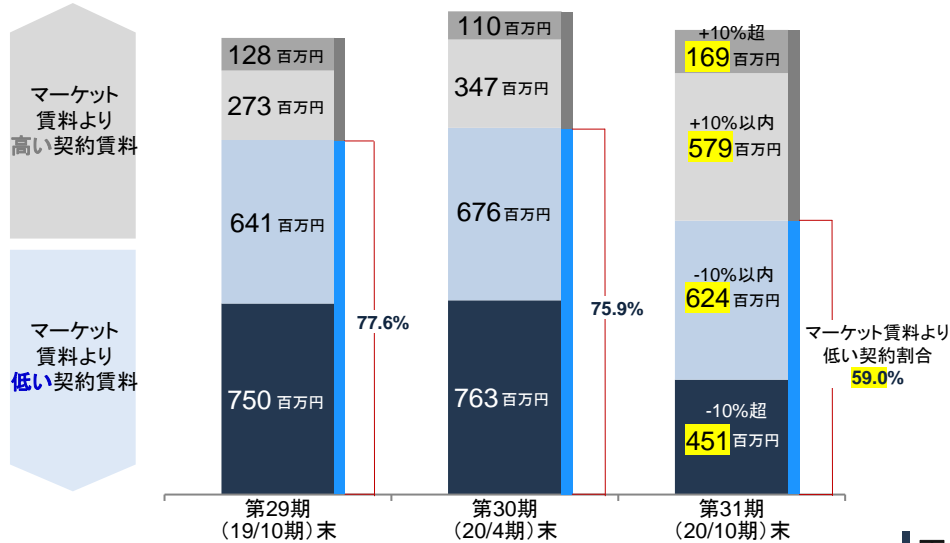
注2: 第31期 (20/10期) 末時点の保有オフィスビルを対象とし、各テナントの契約賃料と第31期 (20/10期) 末時点でCBREが査定した各物件のマーケット賃料との乖離率について、各テナントの賃料更新時期別の分布状況を示したものです。なお、テナントの契約賃料がマーケット賃料と同額の場合は「+10%以内」に含まれます。

注3: 平均レントギャップは各期末時点の保有オフィスビルの基準階平均契約賃料とCBREが各評価時点で査定した各物件のマーケット賃料との乖離率を各物件の賃貸可能面積で加重平均して算出しています。

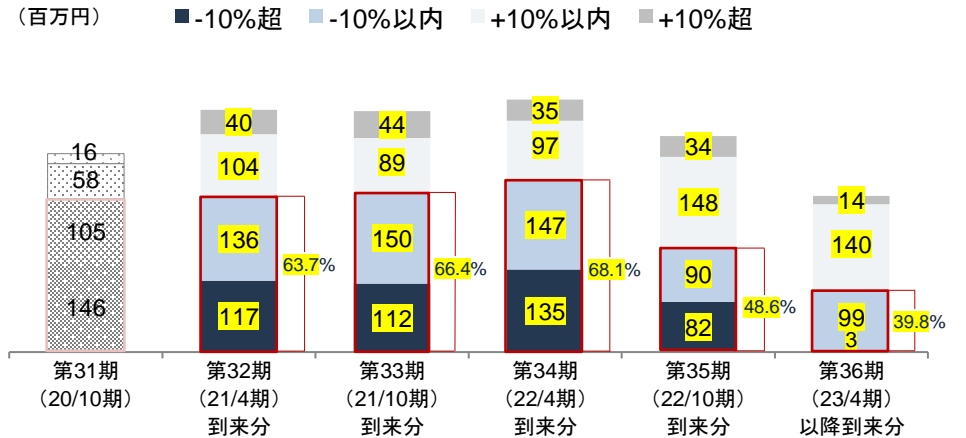
# 保有オフィスビルのレントギャップの状況

・テナント入替や賃料増額改定の実績積上げ等を背景にマーケット賃料を下回る契約賃料の割合は縮小

## レントギャップの分布状況 (月額賃料ベース) (注1)



## 賃料更新期別レントギャップ分布状況 (第31期(20/10期)末、月額賃料ベース) (注1) (注2)

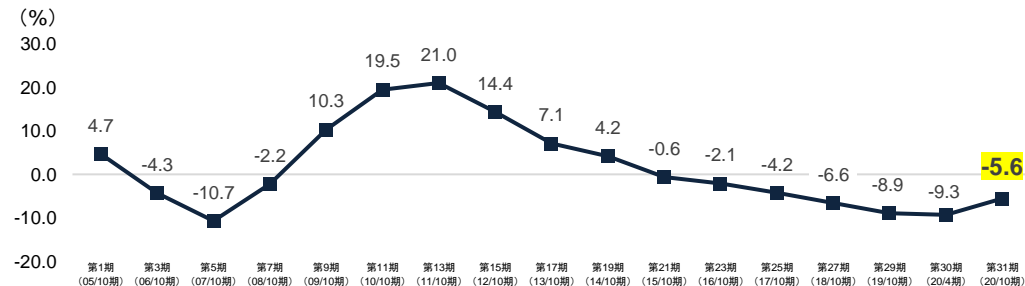


### ■ 保有物件におけるマーケット賃料動向

下表各項目、左から順に都心5区、東京経済圏(都心5区を除く)、地方経済圏の各物件数

	第29期 (19/10期)	第30期 (20/4期)	第31期 (20/10期)
上昇	43 / 21 / 15物件	25 / 9 / 1物件	- / - / -物件
横ばい	5 / 8 / 3物件	23 / 21 / 17物件	37 / 26 / 18物件
下落	- / - / -物件	- / - / -物件	10 / 4 / 1物件

## 平均レントギャップの推移 (注3)



注1: CBREが各期末時点で査定した保有物件の新規成約見込賃料(基準階)をマーケット賃料とし、各期末時点におけるテナント契約賃料との乖離率をレントギャップとしています。

なお、乖離がない場合は「+10%以内」に含まれます。

注2: 第31期(20/10期)末時点の保有オフィスビルを対象とし、各テナントの契約賃料と第31期(20/10期)末時点でCBREが査定した各物件のマーケット賃料との乖離率について、各テナントの賃料更新時期別の分布状況を示したものです。なお、テナントの契約賃料がマーケット賃料と同額の場合は「+10%以内」に含まれます。

注3: 平均レントギャップは各期末時点の保有オフィスビルの基準階平均契約賃料とCBREが各評価時点で査定した各物件のマーケット賃料との乖離率を各物件の賃貸可能面積で加重平均して算出しています。